夕刊
磐城新聞
六月十一日發行

定價 一部 金五錢 一ヶ月 金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金 普通欄 金六拾錢 雜報欄 金九拾錢
五行十二字詰一行一回（場所指定一行卅錢増）
編輯印刷兼發行人 蓮沼龍輔
福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社
登録受信電略（タイライツキ）
平局私書函第十二號 電話五六四番
日曜祭日翌日休刊

紙屑散見 (11)

赤井嶽男

賠償（承前）

中にはアイヌのこの習慣を物慣れた和人の甘くかはしてゐる話柄がある。

膝知文の東夷周覧卷の下に『ヤムクシナイと云へる所の支配人を茂左衛門と云ふ、頗る才智あるものにして夷人の扱ひ方もなく近場所に並びなきものなり、或時他場所の夷人ヤムクシナイへ來りて夷人をとらへて云ふ様、近き頃我父死にたり、父の死せる病根と云ふは十年前汝我父を拳打せし故其金瘡古疾となりて終に死に至れり、汝我父の敵なり、これに由つて償を出すべし若し出さずんばメカツチ（註曰スツウチとメカウチとを屢々混同すこゝにスツウチ即ち棍棒で打つ事を云つたのであらう）をなさんと云ふヤムクシナイの夷人これを聞て悼慄して彼は聞ゆる力量あるものなれば我若し彼とメカ打をなさば打殺されんは必定なりとて様々詞を盡して說きたれども他場所の夷人更に聞き納れず云々。せん方なし茂左衛門方に來り斯と訟へければ茂左衛門聞きて他場所の夷人に向ひて云ふやう、汝が云ふ所理あり然れども十年も以前に撲たる事なれば誰一人證據となるべきものなし、されど人命は人倫の尤も重しとする處なれば其事疑ひなきに至つては此方のエ人に償ひを出さすべし云々、他場所のエ人答へて云、云々、近頃メノコをして占せしむる所必定彼が撲ちたる金瘡病根となりたるに疑ひなしと云ふ、然らば是に勝れる證據あらじと云ふ、茂左衛門聞てさほど確なる證據あらんにはよも相違はあるまじけれども我聊か思ふ仔細あれば彼のメノコを伴ひ來るべし、我自ら問ふて事を決せんと云ふ、他場所のエ人諾して彼のメノコを誘ひ來る、茂左衛門問て云、何某の父の死せるは此方のエ人が撲つ金瘡病根となりて死せると汝占せしやと問ふにメノコ答へて云如何にも彼が云違ひなしと云ふ、茂左衛門聞て誠に汝は古の妙所を得たるものかな、か程確かに申す上には敢て疑ふべきにはあらざれども我も亦汝に占せしむる事あり能く占ひ得ば償を出さすべし若し占ひ得ずんば償を出すまじと云ふに兩人も尤と思ひ、扨、茂左衛門一つの箱を持出て問て云この內の品は如何なるやらん占ふべしと云ふに、メノコ何やらん口のうちに呪文を唱へ暫く考へて云、この內なるものは紙なるべしと云ふ、茂左衛門冷笑して彼の箱の蓋を取れば三四尺の木綿切を入置きたり、茂左衛門彼等に對して云ふやう汝等十年以前の事を以て占をなし證とすれど今眼前の一つ箱の中さへ探り得ずして如何ぞ十年以前を知り得んやと云へば兩人も當然の理にせんかたなく屈服して退きたりと云ふ

高山國の歌（四）

島田忠夫

馬の脊に越ゆる山原霧ふかししとど濡るる足は冷たし

ほくほくと吾が馬の行く高原の草のかげにし雷鳥は鳴き

湧き出づる清水にしばし憩ひけり野茨の花匂ひこぼるる

馬牽きて險しき顏の信濃人やがて唄出づる山のたのしさ

ビスケットの屑もあつめて喰ひにけり高山にあれば皆がら旨き

しばらくは涙を垂れてゐたりける山上にありて心虚しさ

時代警句（花蹊）

○若い女、しかも嫁入際の若い女の器量を落して仕舞ふのは中々天下取りのナポレオンが島流しにされたよりも辛い（自然と人生）

○女は容貌より教育が必要だ……（寄生木）

○醫師にして婦人の驩心を得る術あらば成功の四分の三は已に約束濟みである……（同）

○嫉妬は女の身を亡ぼす毒蛇也……（同）

○女でも思ひ込んだら男に負けはしない。男より餘程執拗で幽靈も女の方が餘計出る……（黑い目と茶色の目）

學藝消息

◇新鋭詩人（六月號）創刊以來前二號は四六倍版四頁であつたが本號から菊版十二頁で卷頭にプロ歌『憎しみのるつぼ』を略譜附で掲げ鈴木虎雄『雨の漏る家』外十八名の歌と詩がある一部十錢八戸市吹上鈴木方其社

▲千鳥（六月號）矢田挿雲師の主幹で俳界の權威誌である、本號もその內容は大石思山『ブシとアイヌと熊』矢田挿雲『師としての二俳聖』其他見るべきもの多し一部五十錢東京本所向島請地町一二俳句と添削社

▲勁草（六月號）短歌誌である、本號には岡田五郎『石川啄木彼の思想と時代』山田武彦『所謂短歌的定量を駁す』宇都部研『實作者の言葉』其他詠草多くその中に本市の成田憲三氏及び倉澤壽子氏等の詠草が推薦されてゐる七十頁一部三十錢本郷區駒込東片町一二二其社

拈華微笑

◇

陳情其他氣流の惡い難コースに澁面つくる金森縣內務部長

◇

鑑定の機械化。客の懷が讀める様な重寶なのを欲しがる藝者

◇

縣下六中等校の野球爭覇戰。端午節句當日高月臺上の壯觀

◇

村儀氏の球の様に計劃が當ると世の中も面白い

◇

あす愈々ツユに入る

○……○

6月12日

△江戸大洪水（天明六）△京濱間鐵道成る（明治五）△郵便脚夫に拳銃携帶を許す（同六）△旅順口の封鎖、大連灣及其附近の渤海は着々その歩を進め旅順口內にある敵艦隊の強行偵察を行ひ多大の困難を冒して封鎖の實行をなす旨此日東郷司令長官の公報あり（明治三九）△ニューヨーク市の組織成る、世界に冠たる大都市の起草は二百六十餘年前（紀一、六六五）

一日一禪

○

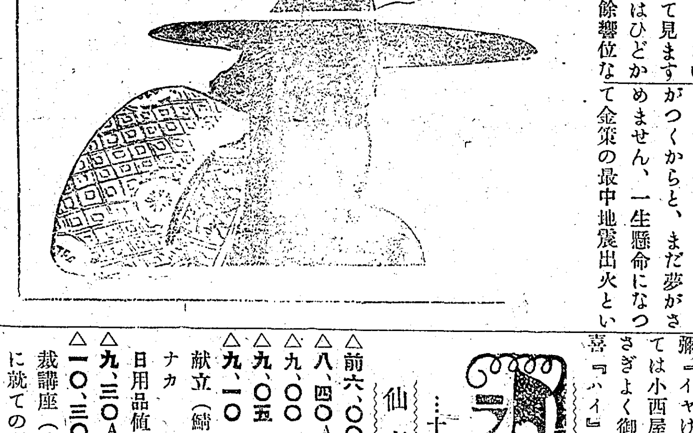
出開愁萃一沾裳
滿野蓬生古戰場

講談 元祿名妓傳

小邑井小巴演
（宮野恒彦畫）

九十五席

寶永四年十月四日の夜四ツ時……只今の午後十時と云ふに、江戸に大地震がございました、尤も以前のやうな大地震ではないが、併し可なりな大地震で獨り江戸ばかりではない、東海道から南海道幾內にも及んで居ります、各所に地われ人畜甚だしく負傷致しました、徳川十五代記には此地震のことを叙して『駿州と遠州の二ヶ國殊に甚だしく、富士山と足高山の間なる須走口より火を發し、ハイを降らし晝闇くして暗夜の如く江戸の地は足高を去ること三十里なれども其響き雷の如く聞こえ、日中燭をとつて物を見る夜に及んで山大に燒け、ハイ降らすこと益々甚だしく、安房兩總の海中に迄及ぶ、翌日は晴れて常の如く其の次の日は又暗くしてハイを降らし、伊豆相摸駿州等の諸國、ハイの積ること二丈餘、武藏は一丈餘なりしとぞ、此時須走り口に一の山を生せり世に寶永山と云ふ』とございます、是れに依つて見ますると東海道の地震はひどかつた、江戸は其の餘響位なものだつたに相違ない、富士山が噴火して寶永山が出來た、土地の隆起と云ふのでございませう、先年の地震にも深川方面は一二尺低下した、地盤が下へさがつた夫れが房總の沿岸に出て一方はさがり一方は上がつた、これと同じことで寶永山の隆起も何處か下つた所があつて、こゝへ盛り上つたのでございませう、扨此の地震は江戸にも諸所に潰れ家が出來、火事も二三起つたが、格別大火ともならず濟みましたが、其中で本町三丁目の火事が一番大きかつた、火元はと云ふと是れがた房の實家の小西屋六左衛門方なのでございました、人間廻り合せが惡いといろ〳〵な凶事がわいて來る、六左衛門は鳴門鳴右衛門に欺されて、二千兩の金を失つた、此時代の二千兩は實に大した金、俗にも千兩富限と云ひ、千兩の身代のものは富限として數へられた、賊をしても十兩以上は大枚と稱して首が飛んだ、十兩盜めば忽ち首が刎ねられました、左ばかり金が尊い世の中で二千兩小西屋の身代もグラ〳〵せずには居られない、盜まれたものは仕方ないから、如何にしても再び金を調達して鍋島家の米を引取らう夫れを自分の手でさばくとすれば六七百兩の利益は得られる盜まれた金の幾分は取返しがつくからと、まだ夢がさめません、一生懸命になつて金策の最中地震出火といふことになつた、徳川時代の法規として自火で他人の家を燒いたときは家は缺所と云ふのだ、且つ御府內には置かぬと云ふのだ、只今などは過つて火を出し人の家を燒いても、罰金の三十圓か五十圓、餘程の大火となつたのでなくては百圓、二百圓の罰金は取られないが昔は斯うして火元の注意を嚴重にし、火事を出さぬやうにしたのでございます、過ちでしたことを聊か失酷な仕置なやうだが、消防の機關の調はないときには斯うでもして各自の警戒をゆるがせにせぬ工夫をする外仕方が無かつたかも知れません、此のときに大層心配をしたのは寺尾彌左衛門夫婦で彌『喜知是れへ參れ』喜『ハイ』彌『扨て〳〵どうも大變なことに相成つた、拙者は役目柄であるから何とか男御の御身の上、小西屋のため取計ひがあるだらうと、其方を始め小西屋の人々も思ふであらうが法は天下の法、拙者の所存を以てまげることは相成らぬ、古語にも大義親を滅すとある、國法のためには男御だとて仕方ない、何とか救つて呉れそうなものだと恨むなよ』喜『ハイ手前は町人の娘と生れましたが、今日では武士を夫に持ち聊か其邊のことも心得居ります』彌『イヤけな氣な申條、就ては小西屋は仕方ない、いさぎよく御法に服せ……』喜『ハイ』



ラヂオ

……十二日（金曜）……

仙臺 JOHK

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△八、四〇A 經濟市況
△九、〇〇 氣象通報
△九、〇五 經濟市況
△九、一〇 ローカル 料理献立（鯖の船場煮）辰木ナカ
△九、三〇A 經濟市況 日用品値段（砂糖るい）
△一〇、三〇 ローカル 洋裁講座（我國婦人の服裝に就ての所感…並その裁縫）東北女子職業學校教諭渡邊すぎ
△一〇、五五A 經濟市況
△一一、四〇 同上
△正午 時報
△後〇、〇五B サキソホン獨奏 ゼーラミース
△〇、四〇A 全國ニュース 氣象通報 告知事項
△一、〇〇A 經濟市況
△二、〇〇A 家庭大學講座（基督教の教義、聖靈に依る新生）明治學院中學部長都留仙次
△二、三〇A 經濟市況
△三、四〇 氣象通報
△三、五〇 經濟市況
△四、〇〇A 全國ニュース
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇A （子供の時間）た話（お人形物語）有坂與太郎
△六、三〇A 英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A 全國ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告
△七、三〇 ローカル 講演（生活の合理化）林龍太郎
△八、〇〇A 講談（宮本武藏）神田伯山
△八、五〇A ナンセンスレヴュー（樂劇先生樣はおひとよし）
△九、四〇A 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項

廣告

みつ豆 五錢
ヲ初メマシタ
美なこすし
四倉新須賀町

平町南町
增田耳鼻咽喉醫院

市原病院
院長 市原卯太郎
平町田町 電一一四

東京久月人形出張大賣出し
五月武者人形
御座敷幟
平町三丁目 丸又内
久月製造元出張

特價大賣出し
祐月特製品！
五月内のぼり
武者人形
金布鯉
平町二丁目
陳野洋品店

座敷幟 武者人形 外 賣出し
一、座敷幟 二圓ヨリ
一、武者人形 七十錢ヨリ
一、金時 五十錢ヨリ
一、外幟（二巾） 一圓三十錢ヨリ
一、布鯉 八十錢ヨリ
外各種澤山取揃へて有ます
平町四丁目（電話九五番）
スガノヤ提灯店

御得意本意特價賣出し
御座敷幟
武者人形
布鯉類一式
夏季用スゞ竹飯櫃
平町三町目
叶星提灯店

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

特價大賣出し
御座敷幟
武者人形
布鯉類
平町三丁目
金太郎玩具店

吉田眼科病院
平町紺屋町

◁奇効如神▷
◎海草蒸瀛療法！
カイソネーチアの出現！
自然の偉力は萬病を征服す
事實は無言の雄辯
迷はず即時實驗あれ
特許中 山式 カイソネーチア磐城分院
平町大町六（電話三七一番） 吉田五平

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

辯護士開業御挨拶
私儀平檢事局檢事在職中は公私共多大の御厚情を蒙り奉深謝候今回官職を辭し左記箇所に於て辯護士開業し叮嚀且懇切に一般法律事務の御相談に應ずべく候間從前通り御引立に預り度く乍略儀以紙上奉懇願候
昭和六年六月
平町字搔揚小路一番地（色川材木店東隣）
辯護士 正五位勳四等 武田清次郎
（前平檢事局檢事）
電話六三九番

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關內藥局

磐城。入山。古河各社が 機械萬能時代を現出

百二十尺前方の出水を探る 巧緻な水平試錘機の偉力

常磐各炭礦が近來當面の難局切り拔け策は勞力の機械化を以て出炭費の輕減を圖るを第一義とすると云ふ見解の下に過般來夫々之れ迄の坑夫作業に替ふるに鑿岩機(コールカッター)の新銳を以てする方針に出でつつある旨既報の如く而も現在に於ける磐城、入山、古河に於ける鑿岩機使用の採炭能率一日一人當り平均十六噸五分乃至二十噸未滿が近き將來に於て北海道三井砂川空知の二十七噸に至らざる迄も九州田川邊の二十四噸程度にその機能を發揮し得る事になれば此間生ずる利益は從來に較べて蓋し莫大なものがあらうと觀測さるるが今や各炭礦に於ける機械の應用は單に前記鑿岩機のみに止まらず最近では各社共採炭に伴ふ出水の有無を檢する水平試錘機を使用し地方採炭界に劃期的の一大變革を來しつつある、該機は炭壁を水平に貫く事百二十尺に及ぶ程の強大なる力を有するもので掘進前豫め之れを以て出水の有無を檢し出水の爲に採掘すべからざる個所は一々セメントを充塡して向後の憂なからしめ次々と此の方法によつて採炭に伴ふ出水の禍因を未然に防止する精細巧緻を極めた機極で從來の如く掘進中水脈に掘り當て狼狽するが如き失敗を完全に除去する事が出來る。目下尚ほ購入日淺く使用者の技能が突貫百二十尺の最大機能を發揮する迄には若干の時日を要するものと觀られてゐるが地方炭礦の操業進展上一エポックたるを失はない

鶴田囑託の技能と 菅原所長の采配振り

沈滯氣分が一掃されて 希望に輝く磐炭の前途

各炭礦の勞力機械化は大体前項の通りであるが特に磐城炭礦では去る三月中永く米國の大學に於て該方面の專攻研鑽に努め叢に赤城山脈の難嶮に於ける關東水力電氣(資本金五千萬圓)の水路工事を完成したる斯界の權威にして故淺野翁の女婿に當る鶴田囑託を迎へて以來機宜を愆らざる菅原所長の人事行政と相俟つて爾來能率の增進大に見るべきものあつた折柄突として昨報の如き大英斷的幹部社員の整理が斷行せられたので彼之社內に於ける空氣の一新を見るに至り今後漸を趁ふて好成績を收むべきは今や殆ど既定の事實として炭礦界注視の的となつてゐる。因に鶴田囑託は既記の水平試錘機使用にも直貫百尺に至らしむる天才的の技能を有し目下の處該機使用に就ては常磐炭界に於ける第一人者であると

完璧を誇る 古河の新斜坑

下野所長湊谷係長等の活躍で 今後の伸展を期待さる

昨春來七十萬の巨費を投じ只管その完成を急がれた好間村古河炭礦の第二新斜坑は所長下野博士の新考案に係る各種機械の全能力を發揮したると常に細心の注意を以て行はれた湊谷係長の人事按配により勞資歡然たる裡に功程大に進捗し既に昨年中豫期の着炭を見るに至り同所の出炭は去月中旬から商品化する迄に漕ぎつけた同所は古河炭礦が今後主力を傾注する最大唯一の重要坑なる丈け間然する所なき坑內外各般の施設は眞に地方炭礦界の模範とするに足るもので在平日刊記者有志は近く之れを見學する事になつてゐる

各中等校配屬將校會議

來十七、八日福島で開催

縣下中等學校配屬將校會議は來る十七、八の兩日縣廳會議室で開催されるので郡下よりは磐中の八谷少佐平商駒場中尉の兩氏が出席する筈であるが今回の會議は昨報の明年度から實施されんとする青年訓練所と實業補習學校の合併問題を主題として之れが實施に先だち諸般の方針を樹てるものの如く設立以來漸次生徒の減少を示しつつある青年訓練所樹て直しの重大な協議である丈けその向背に就ては可なり注目されてゐる

縣下六校の精銳が 高月台に覇を爭ふ

時報主催の野球大會 …組合せ抽籤決定…

磐城時報主催第三回縣下中等學校野球大會は愈々あと十日の目睫に迫つたので參加の各學校選手は日と共に猛練習を續けてゐるが昨十日午後一時同社內に於て石城野球聯盟會長阿部政右衛門及今大會の審判たる石坂一雄兩氏其他各學校代表代理等立會の上抽籤によつて組合せを決定した

平商業――田村中學

相馬中學――安積中學

双中。磐中(不戰一勝)

陳情責めに遭ふ 金森縣內務部長

各種の問題を提げて 待ち構へた地方民

本縣金森內務部長は郡下の低利資金融通後の桑園改植並に春蠶狀況其他を視察するため今十一日來郡、四倉を皮切りに郡內各町村を視察の上今夕は湯本町松柏館に一泊の上明十二日は茨城縣境まで限なく踏査の上同日小野新町に向ふ豫定であるが八日の町村長會で實行方針を決した四倉漁港修築費國庫補助交附促進に關し實行委員たる勿來大平町長等が陳情の爲今十一日上京した一方地元では內務部長の來郡を機とし極力その了解を求むる外大浦村磐陽舘製絲工場その他より乾繭資金の融通方を懇談する筈である。尙ほ目下工事を中止して居る藤原川上下即ち小名濱町松の中磐崎村岩ヶ岡、下船尾等からも護岸工事促進方を其他各町村道路縣補助支辨等の陳述もあるらしいと

投槍 寄書歡迎

お茶代と宿帳

◇內郷村SM生の宿帳の不快を拜見したが事實旅行の煩はしさは茶代と宿帳である。旅客は幾何の茶代を置くべきかに苦慮する。然も今日の茶代は待遇に對する報酬でなくして、サーヴィスを要求するの代償であるとともに他方體面と見榮との爲に潰される義務費にも充てられる

◇茶代には限度がない、一種の不文的規格はあるがこれとても旅客の種類宿屋の種類によつてそれ／＼違つて居る、置かんでもよかりそうなものだが、置かないとき蒙るであらう不愉快な感情を想起するとき、その爲に旅行それ自身の愉快さが減殺されることを恐れ遂に必要以上の無駄をやつてしまはぬとも限らない、これが廢止されゝば旅行者は可成り煩はしさから救はれる

◇茶代が宿屋のサーヴィス代だとすればそれだけ宿賃に加へたがよいそれは旅客として當然支拂ふべき義務費である。更にモウ一つ宿帳の方面も何とか改良して貰へないものか宿屋の亭主が岡ッ引であつた昔の警察制度は最早廢止してもよい、其筋の清新なる時代意識に期待したい(平町滔天生)

入神の快技を見する 撞球の大家村儀豐氏

十三日夜古河役員倶樂部で 同社內アマチュアを指導す

全日本アマチュアボークライン選手權を有し本邦素人撞球界の第一人者を以て目されてゐる村儀豐氏は去月下旬來地方アマチュアの爲七十七銀行支店樓上及マルト球場等に於て夫々入神の快技を見せたが來十三日午後五時から十四日朝へかけ好間村古河炭礦役員倶樂部に於て同礦湊谷係長以下十數名の同好者に對して指導する事となつた

勇敢な小學生徒 知事から表彰さる

飛び込んで溺兒を助けた 玉川の小濱谷治少年

玉川村尋常六年生小濱谷治(一三)は去月二十五日午前七時半頃登校の途中同村富岡齋藤正見(九)が藤原川の假橋を渡らんとして過つて川中に墜落苦悶中を發見勇敢に飛び込んで之を救助した廉によりその筋へ右善行を內申中の處今十一日平署に人命救助の表彰狀が到着傳達された

住み口はあるが 適當なのが無い

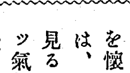
其爲案外に埒あかぬ 平町の少年就職斡旋

郡下各小學校に於ける今年度卒業生中平職業紹介所へ就職の希望を申込んだ百六十二名に對しては平職業紹介所では去三月以來これが斡旋に最善の活動を續けてゐるが不況の處へ求人側と求職者の希望か一致せぬ爲其間の決定がとかく順調ならず今十一日現在で僅か四十三名が就職したに過ぎぬので最初の申込百六十二名が近來次第に減少し目下八十名內外に半減したが尙ほ殘りの半數は何日その希望を滿たし得るやら至極悲觀さるべき情勢に置かれて居る、尙就職者の大部分は電氣工、大工、時計工等殆ど技術方面のみであると

千葉で盜んで 小名濱町へ

不審の男犯行自白

當時住所不定無職小名濱町舟曳場三生れ佐藤庄太郎(三三)は九日夜同町地內を徘徊中擧動不審で檢擧されたが取調べの結果五日夜千葉縣銚子町佐々木某方より金時計外衣類數點價格四十圓外數件の竊盜を自白したので引續き取調中



艶罪黒白

◇藝者も夏分だけは淸洒な洋裝にして貰ひたいね、人工着色までして熱くるしい島田を載つけて客に不快の感を懷かせるなどは、チト考へて見るが好い◇油ッ氣なしの洗ひ髮、髮のほつれが二筋三筋白い襟足にかゝるなどは、冷風腋下に起る淸凉の感がある◇序に廣幅の帶をぐる／＼卷きつけるのは、見る目にも氣の毒に思はれる、一つバンド無しの家庭着のような洋裝で座敷に出るやうに改良したらどうか、そうだ今流行のパヂャマ代用にもなるからね。

鎌田鐵橋の轢死は 捜査中の逆上者

昨日身許が判明し 死体を下げ渡さる

一昨九日未明夏井川鐵橋上で發見された轢死體の身許は其筋で調査中の處昨十日に至り右は磐崎村上湯長谷五反田九五日雇業野木與三郎(四二)で昨年末より多少精神に異狀を呈し數日前より行衞不明となり捜査中のものと判明し同人の兄である同村堀之內野木與太郎に引渡した

平町新風景

甘い私語から 失望のドン底へ！

罪深き春子のトリツク

なにがしの『花柳にせ業』なら『昔男ありけり』と筆をぶつつける處ですが之れは最近の而も生きの良い話し。バストでなくてプレセント、タイムなんです。

平町の紳士間でも馬に食はせる程金があつて容子がスマートで其れに話しがわかつてゐると云ふ何一つ非の打ち處ないMさんです。最近江戶村からの歸りに上野驛前の永藤パン屋で買ひ物をして居ると通りかかつたのが『春子』なんです、それ新田町の三島家のですよ。

0

想ひ設けぬ旅先の逢ふ瀨をこよなき事に喜びて春子の胸の程を訊しけるに矢張りタヒラへ立ち歸るとありければ上野平間五つ時餘りを十一本七圓三十七錢も拂ふ事なく思ひの程を打ち明け明けられ初なつの一と夜さを心ゆく許り語らはんものをと玉代の代りに靑切符一枚を贖ひ與へいそ／＼と七時上野發の汽車にまろぶが如く乘り込みけり。

0

身も心もわく／＼と汽車の動きそむるももどかしく眞夜中近く平へ降りて後の嬉しき首尾を胸に描き乍ら目尻を八時二十分ごころに弛ませてありける程にいとし春子は芙蓉の唇徐に開いて『待ち人來らねば降りる事を許してよ』とありければ治兵衞ならぬMさん飛び上らんばかりに愕きたれども此の時既にわが(?)春子は車のそとに降り立ちける折しもあれ今の今迄此の世の娛しみを一と室に集めけん思はれたるその汽車は今は言ひ知れぬ憂愁を載せて都をあとにひた走りに走り出でたるぞ憂たてき。

0

闇をついて駛る轣轆の音にブロークン、ハートを懷ける若きエルテルの夢は容易に結ばれず轉展反側の裡に初夏の夜は更け行きぬ。Mさんがまんまと昇がれた。ではない乘せられた話し。平町の移動新風景。夏の夜の一軟尖ではある。

平町人事

△出生

八幡小路三八渡邊久二女翠

△婚姻

東京本鄕區駒込千駄木町八六島田道夫(三六)南町六六芹澤君子(三三)

三坂村中三坂一六六大谷松次(三六)五丁目五石川サタ(二九)

茨城縣西茨城郡西山內村飯合渡邊洋(三四)仲町八川村キミ(三〇)

▲死亡

五丁目五樺太豐原郡豐原町豐原石川力男(二)

月見町二九原野友子(一)

播槌小路三三東京市芝區芝口三丁目二泉テイ(五三)

東京久月人形 平町

三丁目丸又內久月製造元出張の五月武者人形及御座敷幟は格安の割合に新奇のもの多く好評を博してゐる

高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

上田外科醫院
院長 上田耕作
平町南町 電一二九

安齋外科醫院
平町田町
電四七五番

藤沼醫院
平町紺屋町電五〇七

松竹下加茂超特作時代劇 惡魔之助監督作品
疵高倉
月形龍之助主演 森靜子・廣田昂 高松錦之助 共演

日活超特作時代映畫 監督清水英次郎
江戶つ子市場
澤田清。山田五十鈴主演 淺香新八郎 高瀨實 共演

松竹蒲田特作現代劇
愛慾の記
山內光。結城一郎。田中絹代。花岡菊子 共演

十二日より……普通席金二十錢 平舘

尚武人形
東京一流 玉秀特作品
特價提供
二丁目の 福多屋ふとん店 際物部

中形新柄宣傳大特賣
すばらしい人氣!!!婦人倶樂部、歌集、音曲リーグ戰浴衣外各種豐富
子供服地新柄入荷
可愛いお子樣方にふさわしい服地色々取揃へました。
三井呉服店

初夏のサロン
樽詰生ビールを召せ カップ一杯十五錢
そして醉つたあとの冷たいアイスクリームも御座います……一ヶ十五錢
田町サロン 電話三五二番

早慶野球戰
勝敗豫想投票募集

スポーツ日本の最大痛快事たる早慶戰は來十三日十四日の目睫に迫りました。弊店は親愛なる我が野球ファン諸君の爲百パーセントの興味を唆るべく左記により勝敗の豫想を募ります。

一、用紙書式 官製ハガキ
第一回戰 何校の勝
第二回戰 何校の勝
第三回戰 (になりたる場合)優勝校名
一、宛名 平町田町 磐城新聞社
一、〆切 六月十三日一便配達迄
一、當選發表 決勝戰終了翌々日 磐城新聞紙上
一、賞品 一等、二等、三等、置時計、萬年筆、蓄音器レコード
正解者多數の場合は抽籤を以て定む

主催 大谷時計病院 平町三丁目(電十九番)
後援 磐城新聞社